

2025 年9月 6 日

学校法人山口学園
ECC 国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

2025 年度第1回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき
2025 年度第1回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2025 年9月 6 日(土) 14:00-16:00

2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1 号館5階501教室

3 学校関係者評価委員 ※順不同

(1)関連業界等関係者

委員長	五十嵐 駿太 氏	株式会社 With The World 代表取締役
企業関係者	國府 昭義 氏	三井不動産リゾートマネジメント株式会社 HOTEL THE MITSUI KYOTO 副総支配人/人材開発部長
高等学校関係者	貴治 康夫 氏	高等学校 教員
地域関係者	中上 隆雄 氏	済美地域社会福祉協議会 会長
保護者代表	高田 由紀子 氏	国際キャリア学科国際エアラインコース保護者
卒業生代表	荒木 駿汰 氏	国際キャリア学科海外インターンシップコース卒業生
卒業生代表	小笠原 梨乃 氏	エアライン学科エアラインコース卒業生

(2)同席者

大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 学校長
東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 副校長
榊原 悠佑	ECC 国際外語専門学校 教務課責任者
中務 晃子	ECC 国際外語専門学校 教務課英語チーム
南條 祐麻	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
杉田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
里 才門	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
山本 静香	ECC 国際外語専門学校 教務課(書記)

4 報告内容

(1)開会挨拶・2024 年度総括について【大谷内】

- ・ 3 か年中期計画(2024～)は、「語学・観光系専門学校として西日本マーケットシェア No.1」を目指す。
- ・ 学校は、学生が安心して失敗を経験できる場であることを重視。
- ・ 2024 年度より英語改定プロジェクトを開始し、2025 年度よりカリキュラムを刷新している。
- ・ 留学生増加に伴い、教育・就職・組織体制の整備が急務。
- ・ 外部ニーズを踏まえた授業内容や学修成果の発信を強化する。

(2)2024 年度自己評価報告に基づく報告と委員の意見・質問

基準3 教育活動(榊原)

- 学生アンケートにおいて「力のつく授業」「担任」「学校生活満足度」が目標達成できたが、一部の講師に問題の改善が見られず、クラスビジットやフィードバックの効果が課題となっている。
- グローバル英語・総合英語コース合同で初実施をした学生同士が評価を行う参加型の学修成果発表会では、約 30 名の学生が日本文化を英語で発表。学生の積極的な姿勢が見られ、学修成果も高かった。次年度以降も継続実施予定。

貴治委員

- クラスビジットについて
いきなり実施するのではなく、まず指導案を提出してもらい目標を明確にすること。
クラスビジットは 2 名体制で入り、フィードバックを行う。パワハラとならないよう配慮が必要。
講師の中には向上する人とそうでない人がいる。転勤・再度研修受講・退職に至るケースもあった。

荒木委員

- 成果発表会はぜひ継続してほしい。学生のモチベーション向上につながる。

國府委員

- 講師評価について
Q:学生の満足度以外の評価基準はあるのか？
A:年 3 回の面談で学校貢献度などを確認(榊原)。
Q:学生の習熟度目標はコースごとに設定されているのか？
A:評価に反映される(榊原)。
学生満足度は大事だが、360 度評価も必要。厳しい講師も長期的には評価される場合がある。
- 指導方法について
企業も同様で、接し方・叱り方が難しい。外資系では一方的指導ではなくワークショップ形式が多い。
課題を与えチームで協力することが重要。英語で演劇・ミュージカル・漫才・落語など、カルチャー要素+チームワーク+英語力を組み合わせた活動も良いのでは。

中上委員

- 国際ホテルコースの卒業制作カフェラポールは地域の人も参加し、楽しめる良い取り組みであったので、同様の行事があるとよい。

高田委員

- 娘の周囲は熱心な講師が多い。
- 信頼関係が築けていないと良い講義でも学生が受け入れにくいことがある。
- 「子どもにとって良い講師」と「親から見て良い講師」は必ずしも一致しない。
- 海外インターンに参加した学生が「帰りたいくない」と言っていた。国内インターンもあれば良い。

五十嵐委員

- 成果発表会について
個人発表では待ち時間が長くなる。学生同士が互いを評価する仕組みが良い。
発表者がオーディエンスを巻き込むことを評価に含めるのも良い。ファシリテーター的役割を重視するなど、成果の着地点をもう一段深める設定をするのも 1 つの方法。
- 学生の様子
温かい心を持つ学生が増えている。
学生をよく知る講師からのフィードバックは質の高い成果物につながる。

基準4 学修成果・就職率(杉田)

- 2025 年 3 月卒業予定者の就職内定率は 100%。求人件数 1,300 件のうち 1/4 がホテル関連。
- 語学系コース学生の就職活動意欲向上が課題であり、また留学生においては、モチベーション維持が重要。

基準4—2 資格取得率(中務)

- 新英語カリキュラムの特徴は、自律学習者の育成を目指して、個別目標設定と学習トレーナー制度を導入したことである。
- アングリア試験 B1 達成を目標とするが、受験者数の伸び悩みが課題。

貴治委員

- 就職率について

Q: 業界就職率 72.7%の理由

A: エアラインコースで客室常務員の内定が獲得できなかった学生が、航空業界ではなく、他業種での就職を希望したケースが多かった。

荒木委員

- 留学生が就職に関心を持てるよう工夫が必要。
インターンシップの導入を提案。
→ 後期から導入予定。インターンシップ後の採用試験合格率は 66%。今年度から公欠扱い。
マイナビ・リクナビの One day インターンや学校紹介インターンの周知予定。

小笠原委員

- CA 不合格者が GS に流れないことは悪いことではない。
- 自身も他社で早く内定を得たいと思った経験があり、学生にも同様の思いがある。

國府委員

- 留学生関連
リゾートホテルは留学生採用が多い。例: 箱根ふじやホテル(留学生中心採用)。台湾・韓国で現地採用するホテルもある。就職難の韓国からは優秀人材も来るが、ビザ目的で入職後すぐ転職するケースあり。英語圏出身者は有利。留学生においても英語力向上は重要。
- その他
観光案内のボランティア(オンライン予約など)も取り組みのアイデア。学校側のサポートが必要。

基準5及び基準 6 学生支援/教育環境(榊原)

- 留学生受け入れ態勢強化(求人確保)。
- 学習意欲低下者対応: 休退学者は減少したが、韓国語コースで退学者多し(帰国後退学・カルチャーショック等)。
- 出席率の低い学生は留学を認めない方針を導入。
- 当委員会の意見を参考とし、保護者連携強化においては、2025 年度より保護者懇談会実施時に、茶話会の実施及び就職相談ブースの設置を決定。また卒業生との連携においても同窓会を企画。

國府委員

- 真面目な学生が多く、自分だけ違う行動を取ることをためらう傾向がある。ポジションに空きがあっても公募では応募が集まりにくい。
- 「やりなさい」と指示されると実行する傾向あり。
- 海外留学が希望制だと手を挙げない学生が多いのではないかな。
- 費用面の課題はあるが、**全員留学(必須)もあり得るのではないかな。**
→ 2026 年度より全員留学制度を実施予定(榊原)

貴治委員

- Q: 留学の具体的なメニューはどのように組まれているか。
A: 大学の語学堂にて韓国語の授業を受ける(榊原)
- 立命館高校では課題研究を導入予定。現地学生と一緒に取り組み、帰国後もつながりながらレポートを仕上げる仕組みを整備している。帰国後も交流できる仕組みを導入してはどうか。
Q: ICT の活用では、立命館高校では講師は Microsoft、生徒は Google を使用。一元化するのはなぜ?
A: セキュリティ面の強化、Microsoft office365の機能充実が主要因(榊原)

高田委員

- ECC 入学のきっかけは語学留学経験。
- 英語を使って仕事をしたい思いもあり、海外で一步踏み出す経験が自信につながった。
- 留学は必須でも良いのではないか。
- 保護者が最も不安に思うのは就職。保護者面談後にキャリアセンターから直接話を聞けるのは非常に良い取り組み。

荒木委員

Q:留学(韓国語)の渡航時期は？

A: 9～12 月、9～2 月(榊原)

Q:留学時期をずらすことは可能か？

A:ホテル就職希望者が多いため、時期の調整は困難(榊原)

- 渡航条件に「出席率 80%」を設けるのは良い案。
- 海外留学希望者の減少傾向について、OC スタッフのスピーチ時に、留学経験者が写真などを使って視覚的に伝えるのはどうか。
→ OC で実施済。ただし写真は未活用のため導入予定(南條)

小笠原委員

Q:寮生活での不仲問題について、サポート体制は？

A:24 時間サポート体制を利用しているが、共同生活では、「自分ルール」により不仲が生じるケースがある。

- 留学はゴールではなく通過点であることを、より強調して伝える必要がある。
- 身近に目指したい先輩の存在を示す工夫も有効ではないか。

基準7 学生募集・受け入れ(南條)

- 入学者数 325 名(韓国語コース最大:77 名)。
- 募集活動の特徴:①エアライン内定実績、②高校連携、③在校生との交流。
- 競合校との差別化と強みの訴求が課題となっている。

國府委員

Q:中堅層は大学と迷っている学生が多いのでは？

A:関西外国語大学を希望するが届かない、あるいは自信がない層が、3 年制の国際キャリア学科のコースと迷うケースが多い(南條)

Q:入学時点で、コースや専攻を決めるのに躊躇する学生が多いのではないか。

A:国際キャリア学科において、現在専攻の決定時期を検討している。

基準10 社会・地域貢献(東井)

- 山口学園では、社会貢献活動を推進してしており、毎年多く学生がボランティアに参加している。
- キャンドルナイトやカーニバル等の地域ボランティア活動に 79 名が参加。

中上委員

- いろいろな考えを持つ人や幅広い年齢層の人とのかかわりながら活動をしていくので、卒業後、この経験を活かしてもらえると良いと思う。

(3)レジリエンス教育について(大谷内)

若い人が就職後すぐに辞めてしまうことも多い中、安心できる環境から一步外に出る経験や、学内での小さな失敗を通じた学びが大切だと思います。あわせて、そうした経験を上手に発信する方法についてもご意見をいただきたい。

(越境体験・小さな失敗・成功体験、HP や SNS の情報発信についての意見)

高田委員

- 長期留学では、言語力が伸びても人間関係でつまずくことがある。海外では Yes/No しかない場面が多いが、日本ではグレーゾーンがあり、上手く伝えきれないこともある。
- 保護者も参加する、留学オリエンテーションは非常に有効的である。
- 日記を書く等毎日を振り返ることで学びにつながる。
- 留学中に TOEIC 等を受験できると、英語力の証となりモチベーション向上に効果的。

貴治委員

- 小さな成功体験が重要。
- Safety net から出るボランティア体験などを通して学びを得る。
- 単位認定のボランティア体験科目の導入も検討できる。ボランティアや現場体験で自己肯定感・有用感を高められる。観光地、ホテル、空港などでの体験が有意義。

國府委員

- 成功体験の場を学校が提供することが重要。
- 学校推薦のアルバイト先リストを作り、安心して働ける環境を整備。
- アルバイト経験は就職活動にも活かせる。

荒木委員

- 英語科目は失敗が少ないため、専門科目で挑戦させることが重要。興味や適性は人それぞれ。スピーチコンテストやボランティアなど、選択肢を学生に広く伝えることが必要。
- Instagram など情報発信の更新頻度を上げると効果的。

小笠原委員

- 学校では失敗経験がほとんどなかったが、入社後は毎日失敗の連続。
- 「失敗」を挑戦・学びとしてポジティブに捉える表現が望ましい。
- Instagram での学生の様子等(画像)の配信は効果的。ぜひ継続していただきたい。

五十嵐委員

- 全員留学では振り返りの機会が多く、失敗を共有して学びに変えることができる。自己効力感が高まり、他者の学びにもつながる。
- 対話会形式は有効で、失敗を単なる失敗で終わらせず学びとして言語化することが重要。

総評

各部門の取り組みが反映された報告であり、改善と成長の姿勢が評価できる。成果発表会や留学制度、ボランティア活動など、多様な取り組みが学生の成長に直結している。今後も「失敗を学びに変える文化」と「挑戦を奨励する環境」の定着を期待する。